

熊本地震に関して、神戸大学の二人の研究者の講演会を企画しました。熊本地震のメカニズムや阿蘇山との関係、また被災地の現状についてご講演をいただきます。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

5月28日(土)13時30分講演開始(13時開場) 於：神戸大学百年記念館六甲ホール

阪急電車「六甲」駅、JR西日本「六甲道」駅又は阪神電車「御影」駅から市バス36系統「鶴甲団地」行きに乗車
「神大文・理・農学部前」下車

先着：200名(事前申込不要)

講演1：13時30分-14時10分

「地震大国火山大国ニッポンに暮らす覚悟」 巽 好幸(神戸大学教授、海洋底探査センター長)

また列島が揺れた。4月14日夜の前震と16日未明の本震(M7.3)は震度7、それ以降も震度3以上の余震は300回を超えた。さらに震源域には「札付き」の活火山阿蘇山が位置し、16日に噴火が起きた。なぜこれほどまでに日本列島は私たちに試練を与えるのだろうか？ こんな地勢に暮らす私たちは、どのように列島と付き合っていけばよいのだろうか？

質疑応答：14時10分-14時20分



講演2：14時30分-15時10分

「熊本地震による 地盤震動と住宅被害」

長尾 毅(神戸大学教授、都市安全研究センター)

熊本地震では益城町を中心に住宅被害が多発した。本講演では、住宅被害の程度と地盤条件の関係について述べる。

質疑応答：15時10分-15時20分



閉会挨拶：15時20分-15時30分 齋藤政彦(理学研究科長)

後援：神戸大学

問い合わせ先：理学研究科総務係 ☎078-803-5761

神戸大学大学院理学研究科・海洋底探査センター・都市安全研究センター主催